

<引用文献>

- ・安奈淳 (2004) . 膠原病と闘う, 法研, 10-11.
- ・天野正子 (1996) . 「生活者」とはだれだ 自律的市民像の系譜. 中公新書.
- ・朝倉隆司 (2005) . 健康, ストレスにおけるジェンダー差と医療社会学. 性差と医療, 2 (11), 19-25.
- ・浅野美知恵, 佐藤禮子 (2005) . 消化器がん手術後の患者と家族員の円滑な社会復帰を促進するための外来看護援助のモデル開発. 千葉看護学会誌, 6, 17-24.
- ・有森直子, 江藤宏美, 大森純子他 (2009) . People-Centered Care の戦略的実践 I - パートナーシップの類型 -. 聖路加看護学会誌, 13 (2), 11-16.
- ・浅井直美 (2007) . 看護早期体験実験における学生の視点からみた学習経験. 桐生短期大学紀要, 18, 31-38.
- ・Blumer, H (1969). The Methodological Position of Symbolic Interactionism Perspective and Method. 1-77, Prentice-Hall, Inc.
- ・Derogatis, L. R., Morrow, G. R., Fetting, J., et al. (1983). The prevalence of psychiatric disorders among cancer patients. JAMA, 249, 751-757.
- ・Erikson, E. H., & Erikson, J. M : 村瀬孝雄訳, 近藤邦夫 (2003) . ライフサイクル、その完結 (増補版) . みすず書店.
- ・舟島なをみ (2005a) . 看護学のための人間発達学 (第3版) . レビンソンの成人の発達理論. 医学書院, 39-46.
- ・舟島なをみ (2005b) . 看護学のための人間発達学 (第3版) . ハヴィガーストの発達理論. 医学書院, 47-54.
- ・舟島なをみ (2005c) . 看護学のための人間発達学 (第3版) , エリクソンの自我発達理論. 医学書院, 28-32.
- ・船津衛, 宝月誠編 (1995) . シンボリック相互作用論の世界. 恒星社厚生閣.
- ・福江真由美, 内富庸介, 石田百合他 (1995) . 乳がん患者の感情状態とその要因 - 外来通院患者の調査より -. 臨床精神医学, 24, 1359-1365.
- ・石田順子, 石田和子, 狩野太郎他 (2004a) . 化学療法を受けている乳がん患者の気付きとその影響要因, 群馬保健学紀要, 24, 41-51.
- ・池田和恵, 松尾ひとみ (2010) . 「エンパワーメント」概念の活用状況 - 文献検討を通して -, 静岡県立大学短期大学研究紀要, 24 (w), 1-8.
- ・古城幸子, 金子時恵, 真壁幸子他 (2005) . 地域で生活する精神障害者の日常生活実態についての研究, 大阪大学看護学雑誌, 11 (1), 30-37.
- ・古城門靖子, 寶田穂 (2006) . 精神看護における「生活者」という視点について. 看護研究, 39 (5), 39-44.
- ・吾郷ゆかり, 吉川洋子, 松本亥智他 (2009) . 看護基礎教育における「生活者を理解する視点」家庭訪問実習と病院実習後の自己評価より. 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要, 3, 71-76.
- ・檀原三七子, 守田孝恵, 山崎秀夫 (2009) . 保健推進員活動の支援に関する保健師の意識. 日本看護学会論文集 (地域看護), 39, 140-142.
- ・Havighurst R. J. (1972). バヴィガーストの発達段階と教育 生涯発達と人間形成, 児玉憲典, 飯塚裕子訳 (1997) . 川島書店.
- ・Havighurst R. J. (1995) , 人間の発達課題と教育. 荘司雅子監訳. 玉川大学出版部.
- ・萩原正人 (2003) . 僕は、これほどまで生きたかった. 扶桑社, 13-14, 23-25.
- ・濱松加付子 (2000) . 医療技術の高度化と看護. 木下安子・川隆吉監修・板倉立文編 . 病院組織の中の看護. 東京: 中央法規, 68-104.
- ・長谷川俊雄 (1995) . 貧しさを受けとめ励ます看護 貧困のなかでの療養と看護に求められていること生活者としての理解の重要性, Nurse eye, 8 (3), 26-28.
- ・平松愛理 (2001) . ゲキツー!! 子宮内膜症との闘いの日々. 講談社, 28-32.
- ・菱沼典子, 徳間美紀, 新幡智子他 (2006) . 看護大学が開設している健康相談からみ

- た市民の健康問題と看護職の対応. 聖路加看護学会会誌, 10 (1) . 38-45.
- ・菱沼典子,川越博美,松本直子他(2005). 看護大学から市民への健康情報の提供-聖路加健康ナビスポット「るかなび」の試み-. 聖路加看護大学紀要,31, 46-50.
 - ・廣川空美(2005). ストレッサーと性差~結婚と健康 Evidence Based marriage 研究を目指して~, 性差と医療, 2 (11) , 21-25.
 - ・掘夏樹(1997). 医者と患者は本当にわかりあえるのか, 患者と医師のことばのズレ, 東京, 社晶文社, 74-78.
 - ・細川満子, 千葉敬子, 山本春江他(2008). 教員が考える在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度 青森県看護教育研究会地域看護学グループの取り組み, 青森県立保健大学雑誌, 9 (2) , 159-165.
 - ・久川洋子, 吾妻知子, 菅原邦子(2007). 基礎看護学早期体験学習の効果 看護学生および体験学習施設からの評価. 天使大学紀要, 7, 67-76.
 - ・廣川恵子(2007). 終末期がん患者や家族にとっての外来通院の意味と外来看護師の役割. 日本赤十字広島看護大学紀要, 7, 27-34.
 - ・保坂隆(2002). 一般病棟でみられる抑うつと看護 患者心理のとらえ方. へるす出版, 東京, 86-88.
 - ・保坂隆(1997). がん患者の家族への精神療法的介入. 精神療法, 23 (5) , 452-26
 - ・Hosaka , T ., Aoki, T. (1996) .Depression among cancer patients. Psychiatry and Clinical Nuerosciences 50,309-312.
 - ・保坂ルミ, 斎藤美代, 伊藤治子(2005). 真実を伝えるためのコミュニケーションのあり方 がん告知から化学療法の過程における患者と医療者との認識のずれを振り返る. がん看護, 10 (5) , 428-430.
 - ・稲田三津子著:見藤隆子, 小玉香津子, 菱沼典子総編(2005). 入院. 看護学事典, 日本看護協会出版会, 520.
 - ・稲垣絹代(1999). 野宿生活者の健康の実態 釜ヶ崎の健康相談活動より. 日本地域看護学会誌, 1 (1) , 75-80.
 - ・井上洋士, 平野真紀, 後藤佳奈恵他(2006). 看護学において「生活者」の「生活」を描くための研究方法 「生活者」の「生活」を描くためには3つの面接調査研究の経験から. 看護研究, 9, 399-407.
 - ・池田清子(2006). 慢性の病いと「生活者」、そして「生活」災害看護における「生活者」と「生活」阪神・淡路大震災の体験から. 看護研究, 9, 355-364.
 - ・池西悦子(2001). 看護学生の知識と行動の統合に向けての反省的思考に関する研究, Quality Nursing,7 (8) , 27-32.
 - ・石川牧子(2003). 先生、切ってください!. 音羽出版, 6-7, 28-32.
 - ・石川久美(2006). 地域で問題を起こした単身生活者の退院支援の通して, 日本精神科看護学会誌, 49 (1) , 144-145.
 - ・磯部光章(2011). 話を聞けない医師 思いが言えない患者. 67-96, 東京, 集英社新書.
 - ・糸川嘉則編(2008). 看護・介護・福祉の百科事典. 入院生活. 朝倉書店, 683
 - ・入山玲子, 情家みどり, 瀧井ヒロミ(1998). 新カリキュラム下の「基礎看護学」 「成人看護学」の構築 生活者の視点をもたせるための成人看護学方法論の組み立て. 看護展望, 23 (9) , 56-60.
 - ・岩鶴早苗, 水主千鶴子(2002). 老人看護学における教育方法の検討 老人看護学演習と実習との関連について. 和歌山県立医科大学看護短期大学部紀要, 5, 55-61.
 - ・Jacobson,G.,Strickler,M & Moreley.W.E(1968).Generie and Individual Approaches to Crisis Intervention. Am.J.Public Health,58,339-342.
 - ・神田清子, 石田順子, 石田和子他(2007). 外来化学療法を受けているがん患者の気付き評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討, 日本がん看護学会誌, 21 (1) , 3-12.
 - ・河井伸子, 中岡亜希子, 黒江ゆり子(2006). 健康教育とクロニクイルネスにおけ

- る「生活者」と「生活」を考える. 看護研究, 39 (5), 31-37.
- ・川村三希子, 小島悦子 (2009). 積極的治療が望めなくなった時期を想定した場合のがん体験者の情報ニーズの健康. 日本がん看護学会, 23 (3).
 - ・片岡三佳, 普照早苗, 松下光子他 (2008). 地域基礎看護学実習終了後のレポート分析からみた学生の学び, 岐阜県立看護大学紀要, 8 (2), 3-10.
 - ・河口てる子 (2003). 患者教育のための「看護実践モデル」開発の試み 看護師によるとっかかり／手がかり言動とその直感的解釈 生活と生活者の視点, 教育の理論と技術そして Professional Learning Climate. 看護研究, 36 (3), 177-185.
 - ・河原宣子, 川出富貴子, 前原澄子 (1999). 生活者重視の看護実践能力を育む教育方法「ふれあい看護実習」を通して. 第30回日本看護学会論文集 (看護教育), 30, 41-43.
 - ・菊間千乃 (2001). 私がアナウンサー. 文藝春秋, 103-104.
 - ・木村紀子 (2004). 看護師が感じている看護援助に対する患者と認識のずれ. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護教育研究集録, 29, 17-24
 - ・岸田利香, 市橋恵子, 普照早苗 (2006). 訪問看護の領域における「生活者」と「生活」, 看護研究, 39 (5), 11-19.
 - ・小林茂登子 (2000). あたりまえの日に帰りたい. 時事通信社, 18-31.
 - ・小林益美 (2009). 人工肛門造設を告知された患者の診断から入院までの体験, 長野看護大学紀要, 39-37.
 - ・小林美奈子, 城取由紀子, 古谷春江他 (2005). 生活者として対象理解を目指した基礎看護学実習の学びの分析, 日本看護学会論文集 (看護教育), 35, 66-68.
 - ・小西美智子 (2003). 地域ケア・在宅ケアの論点 大腿骨頸部を骨折した在宅生活者の状況. コミュニティケア, 5 (9), 40-43.
 - ・小島操子 (1986). 喪失と悲嘆-危機のプロセスと看護の働きかけ, 看護学雑誌, 50 (10), 1107-1113.
 - ・厚生労働省 (2010a) 平成20年 患者調査の概要
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/08/index.html> [2010-10-14]
 - ・厚生労働省 (2010b). 平成21年就労条件総合調査結果の概況 労働時間制度
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/jikan/syurou/09/gaiyou01.html> [2010-10-15]
 - ・厚生労働省 (2011) 厚生労働白書 (平成23年). 安心して働くことができる環境整備とセーフティネットの強化, 80.
 - ・厚生労働省 (2003). 医療体制の改革のビジョン
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/04/h0430-3a.html> [2010-10-08]
 - ・厚生労働省 健康日本21計画策定検討会 (2000). 21世紀における国民健康づくり運動 (健康日本21) について 報告書.
http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/pdf/all.pdf#search='厚生労働省健康日本21計画策定検討会' [2012-01-10]
 - ・厚生統計協会 (2009a). 国民衛生の動向・厚生指標 増刊. 世帯数. 56(9), 41-42.
 - ・厚生統計協会 (2009b). 国民衛生の動向・厚生指標 増刊. 労働人口. 56(9). 40
 - ・厚生統計協会 (2011a). 国民衛生の動向・厚生指標 増刊. 受療状況. 58(9), 77-78.
 - ・厚生統計協会 (2011b). 国民衛生の動向・厚生指標 増刊. 死因の概要. 58(9) 50
 - ・濃沼信夫 (2007). 健康長寿のための方策～ライフスタイルの重要性～がん医療にみえる健康と経済. Geriatric Medicine 45(5), 577-581.
 - ・葛谷命, 田中祐佳, 永瀬達也他 (2010). 母親であり続けたいと願うがん患者の希望を支える援助. 癌と化学療法, 37(5), 953-956.
 - ・金玉礼他 (2000). 野宿生活者の集団赤痢発生に関連する地域看護の現状と課題 病

- 院内の外来看護の機能と役割, 30, 137-139.
- 金正貴美, KishiKeiko Imai, 杉本知子 (2003) . 地域住民の医療者とのコミュニケーションにおける態度. 香川医科大学看護学雑誌, 7 (1) , 129-136.
 - 小松浩子 (2000) . 生活者としての成人患者. 氏家幸子監修. 成人看護学 成人看護学原論 (第2版) . 200, 廣川書店.
 - 小松浩子, 鈴木久美, 林直子他 (2006) . 聖路加看護大学21世紀COEプログラム第7回国際駅伝シンポジウム第3報 私たちが選ぶ時代に向けて: 患者中心の乳がんチーム医療, 10 (1) , 61-67.
 - Komastu, H (2008a) . Process of developing people-centered care. Japan Journal of Nursing Science, 5, 117-122.
 - Komastu, H (2008b) . Five years activities of St. Luke' s College of Nursing 21st Century COE program: Creation of People-Centered Care. Japan Journal of Nursing Science, 5, 137-142.
 - 小松浩子 (2010) . がんと生きる患者の看護 コーディネーターとしての役割が求められている. 看護学雑誌, 74 (7) 6-12.
 - Ross, E. K. (1969). 死ぬ瞬間一死にゆく人々との対話-. 川口正吉監訳(1971), 東京, 読売新聞社.
 - 黒江ゆりこ, 藤澤まこと, 三宅薫他(2006): 看護学における「生活者」という視点についての省察, 看護研究, 39(5), 3-9.
 - 蔵本文乃 (2006) . 慢性疾患と共に生活する人びとを支える看護に関する考察. 保健科学研究誌, 3, 61-69.
 - 倉本哲男 (2008) . アメリカにおけるカリキュラムマネジメントの研究. サービス・ラーニングのカリキュラム開発. 第2章 サービスラーニングのカリキュラム開発論. ふくろう出版, 東京, 128-134.
 - Levinson D. J (1978) . ライフサイクルの心理学 (上) ・ (下) . 南博訳 (1990) . 講談社学術文庫.
 - Lisa K. T, Denise. J&Vicki S. H(2002). Sex Differences in Coping Behavior : A Meta-Analytic Review and an Examination of Relative Coping .Personality and Social Psychology Review, 6(1), 2-30.
 - 正木治恵, 山本信子 (2008) . 高齢者の健康を捉える文化的視点に関する文献検討. 老年看護学, 13 (1) , 95-104.
 - 松橋由美子, 森真琴, 長船加代子他 (2000) . 継続看護を目的とした病棟と外来の複合化 複合化前後の看護婦の意識変化. 第30回日本看護学会論文集 (地域看護) , 143-145.
 - 松下由美子他 (2002) . 看護短期大学生の生活体験の実態単身生活者と同居生活者の比較から. 日本看護学会論文集 (看護教育) , 33, 12-14.
 - 松田明子 (1986) . 病む人を“生活者”としてとらえるとは 看護における生活概念の明確化のために. 月刊ナーシング, 6 (4) , 416-420.
 - 松谷美和子; 田代順子; 香春知永他 (2004) . 看護教育法としての「サービス・ラーニング」実践研究文献レビュー, 聖路加看護大学紀要, 31-38.
 - 見藤隆子, 小玉香津子, 菱沼典子編 (2003) . 看護学事典 (第1版) . 入院. 日本看護協会出版会, 520.
 - 長濱晴子 (1996) . 患者になってみえる看護 難病が教えてくれたこと. 医学書院, 192.
 - 中野裕子, 東保子 (2006) . 「患者さまを生活者として捉える」ための取り組みー介入マニュアルを用いた継続看護カンファレンスを行ってー第36回日本看護学会論文集 (地域看護) -, 15-17.
 - 中澁子, 大石ふみ子, 大西和子 (2007) . 外来化学療法患者の苦痛と困難に関する看護師と患者の認知の比較と看護のあり方. 三重看護学会誌, 9, 41-54.
 - 仲真人, 伊藤和弘 (2008) . 在宅で療養する難病患者のヘルス・ケア向上にむけてーある重症筋無力症患者のナラティウから得られた知見-, 3, 37-44.

- ・名倉順子, 生田晴美 (2009) . 生活者としての高齢者を理解するカリキュラム構築の必要性. 神奈川県立平塚看護学校紀要, 14, 9-15.
- ・中嶋敬代, 西村容子, 首藤悦子 (2004) . 退院前合同カンファレンスがもたらした病棟看護師の退院計画への行動変化 参加観察法による面接の内容から分析. 第34回日本看護学会論文集 (地域看護), 97-99.
- ・日本看護系大学協議会 (2010) . 看護師の仕事
http://janpu.umin.ac.jp/kango/k02.html [2010-10-08]
- ・Nightingale, F (1869). 対訳看護覚え書. 小林章夫・竹内喜訳 (1998) . うぶすな書院 .
- ・西山悦子他 (2004) . デイケア利用者の地域生活支援における連携単身生活者の1事例を通しての試み. 47 (1) , 404-407.
- ・二重作清子, 薬師寺文子 (2003) . 生活者としての患者を理解するための教育方法の検討
オムツ装着の疑似体験を通して. 看護教育, 44 (8) 711-715.
- ・新村出 (2008) . 広辞苑 (第6版) . 生活者. 岩波書店.
- ・岡戸順一 (2010) . 20代中堅看護師の特性や現状を知る 20代中堅看護師をめぐる職場環境. 看護, 62(2), 46-50.
- ・小此木啓吾 (2000) . 対象喪失. 中央公論新社, 東京, 227-238.
- ・大谷貴子 (1991) . 霧の中の生命(いのち) 白血病を骨髄移植で治し 今日(いま)を生きる. リヨン社, 13-15.
- ・表志津子他 (2009) . 能登半島地震被災後の自宅生活者における1年間の健康状態の推移と影響要因の検討 (第3報) . 33 (1) , 33-39.
- ・大野かおり (1999) . 被災後初期における在宅生活者への支援 (第2報) 阪神・淡路大震災での保健活動より看護援助のモデル. 神戸市看護大学短期大学部紀要, 18, 9-15.
- ・大橋久美子 (2008) . 一般病棟における患者の「入院生活」: 概念分析. 聖路加看護学会誌, 12 (2) , 14-23.
- ・大森純子, 高橋恵子, 牛山真佐子他 (2009) . People-Centered Care の戦略的実践 II -
活動とともに拡大するアウトカム-. 聖路加看護学会誌13 (2) , 17-23.
- ・小澤竹俊 (2004) : スピリチュアルケアを理解するための3つの柱, 臨床看護, 30(7), 1045-1052.
- ・Peplau, H. E : 稲田八重子他訳 (1973) . 人間関係の看護論. 医学書院, p43. .
- ・Rodgers, B. L. & Knafl, K. A (2000). Concept Development in Nursing Foundations. Techniques and Applications (2nded). Philadelphia: Saunders Company.
- ・佐藤正美, 松宮枝利子, 曾我智恵子他 (2003) . 外来からがん告知から手術目的入院当日までの思いとコーピング. 看護技術, 49 (7) , 617-621.
- ・下枝 (高橋) 恵子, 羽山由美子, 岡田定 (2003) . <抑うつ状態のケア>造血器腫瘍患者を対象とする心理教育プログラムの有効性の検討, こころの看護学4 (1) , 131-140.
- ・下村裕子, 河口てる子, 林優子他 (2003) . 看護が捉える「生活者」の視点 対象者理解と行動変容の「かぎ」, 看護研究, 36 (3) , 25-37.
- ・下村裕子, 林優子, 井上智恵他 (2006) . 看護が生活者の視点でかかわること -糖尿病患者の理解と行動変容の「かぎ」-, プラクティス, 23 (5) , 525-531.
- ・下平唯子他 (2007) . 男性路上生活者の健康と生活の動向, 民族衛生, 73 (3) , 87-98.
- ・Spiegel, D., Classen, C. (2000) . がん患者と家族のためのサポートグループ. 朝倉隆司, 田中祥子監訳 (2003) . 医学書院.
- ・Strauss A, Corbin, J. (1990) . 質的研究の基礎 グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第2版 操華子, 森岡崇訳 (1999) . 医学書院.
- ・Strauss A, Corbin, J. (1990) . グラウンデッド・セオリーの技法と手順. 南裕子監訳

- (2000) . 医学書院.
- ・曾我部則之 (2003) . ただいま入院中. 文芸社, 82-83.
 - ・庄野真台 (2000) . myoma<妙魔> さよなら筋腫くん!. 泉書房, 151-153.
 - ・佐居由美, 松谷美和子, 山崎好美他 (2007) 聖路加看護大学21世紀COEプログラム第7回国際駅伝シンポジウム報告 子どもと学ぼう, からだのしくみ -あなたはどれくらいからだを知っていますか?- , 聖路加看護学会誌, 11 (1) , 116-124.
 - ・聖路加看護大学21世紀COEプログラム運営事務局 (2008) . 聖路加看護大学21世紀COEプログラム 市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点. 研究成果最終報告書.
 - ・聖路加看護大学実践研究開発センター (2008) . 2008るかなび闘病記文庫のブックリスト.
 - ・白鳥孝子, 浅井美千代, 掘田美鈴 (2005) . 慢性期看護実習における学生の患者理解についての一例 不穏状態を示す患者を持った学生の実習経過の分析から. 千葉県立衛生短期大学紀要, 23 (2) , 17-24.
 - ・田原節子 (2004) . がんだから上手に生きる. 海竜社, 28-29.
 - ・高尾良子, 越智百枝, 酒井由紀子他 (2008) . 精神看護学実習における病棟と社会復帰施設での学びの特徴について第1報-対象理解に焦点を当てて-, 香川大学看護学会誌, 12 (1) , 77-83.
 - ・田村由美 (2008) . 看護基礎教育におけるリフレクションの実践, 看護研究, 41 (3) , 197-208.
 - ・田中愛子, 大嶋満須美, 戸井間充子 (2004) . ターミナル期にある患者・家族の「気がかり」に介入する意味, 山口県立大学看護学部紀要, 8, 75-79.
 - ・豊田京子他 (2001) . 閉居単身生活者の社会性回復に向けての訪問看護, 日本精神科看護学会誌, 44 (1) , 9-12.
 - ・高橋恵子, 菱沼典子, 石川道子他 (2007) . 看護大学が市民に提供する健康相談サービスの利用状況と課題. 聖路加看護学会誌, 11 (1) , 90-99.
 - ・瀧井ヒロミ, 細田牧子, 中富恵子 (1998) . 新カリキュラム下の「基礎看護学」「成人看護学」の構築 生活者の視点を持たせるための基礎看護学の組み立て. 看護展望, 23 (8) , 59-63.
 - ・竹内孝仁 (1983) . 生活者としての患者と看護の視点. 月刊ナーシング, 4, 497-501.
 - ・Travelbee, J : 長谷川浩, 藤枝知子訳 (1974) . 人間対人間の看護. 医学書院.
 - ・内菌耕一, 小坂樹徳監修 (2003) . 看護学大辞典 (第5版) . 入院. 1625, メディカルフレンド社.
 - ・山田緑 (2004) . People-Centered Care ; 概念分析. 聖路加看護学会誌, 8 (1) , 22-28.
 - ・山根信子 (1986) . 「われもまた生活者なり」という認識をベースとした“かかわり”を “看護する技”を病む人や地域住民と “ともに共有する技”とするために. 月刊ナーシング, 6 (3) , 293-299.
 - ・柳澤桂子 (2003) . 患者の孤独一心の通う医師を求めて. 草思社, 22-29.
 - ・柳川育子 (1999) . 学生の精神障害者に対する不安・偏見を重視し、生活者の視点での対人援助過程の展開を試みて, 40 (7) , 550-555.
 - ・柳川育子 (2000) . 生活者の視点を重視した精神科看護実習の展開方法の工夫と学生の変化 「共同思考・共同行動」の意義. 京都市立看護短期大学紀要, 25, 1-12.
 - ・柳川育子, 柳川和雄 (2001) . 生活者の視点を重視した精神科看護実習の展開「共同思考・共同行動過程」の意義, 看護教育, 42 (2) , 110-113.
 - ・吉川久美 (2006) . 地域で問題を起こした単身生活者の退院支援を通して. 日本精神科看護学会誌, 49 (1) , 144-145.
 - ・吉川洋子, 松本玄智江, 吾郷ゆかり他 (2009) . 生活者の理解に向けた基礎看護実習の教育方法と評価. 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス, 3, 51-59.
 - ・吉田久美子 (2009) . 地域看護実習における課題レポートに関する分析-生活者として捉えることの意味-. 東京医科大学専門学校紀要, 19(1), 13-19.

- 横田美智子, 秋元典子ら(2008). 在宅で終末期癌患者を介護した家族の体験, 日本がん看護学会誌, 22(1), 98-107.
- 和田攻, 南裕子, 小峰光博 (2010) 看護大事典 (第2版) . 入院. 医学書院, 2224-2225.